

UNHCR新規プロジェクト 「ヨルダンにおけるシリア難民の保護及び支援」

日本政府は、令和2年度補正予算により、UNHCRのヨルダンでのプロジェクト「ヨルダンにおけるシリア難民の保護及び支援」に対し、新たに約4.9百万ドルの支援を決定しました。新規案件では、昨年に引き続き、難民キャンプ内のカウンセリング、メンタルヘルス、心理社会的支援等の、重要な地域密着型の保護サービスに加えて、レクリエーション活動や自己開発活動の提供が予定されています。

3月28日、新規プロジェクトの立ち上げにあたり、嶋崎大使はUNHCRヨルダン事務所を視察し、バルチュUNHCRヨルダン事務所代表と懇談しました。

バルチュ代表からは、「日本からの資金提供は、この困難な時期に、我々が難民の懸念に対してより効果的に対応し、安全な場所を提供することを可能とする」として、シリア危機以降の継続的な日本の支援に対し感謝の意が述べられました。

嶋崎大使は、COVID-19パンデミックにより深刻な影響を受けている、ヨルダンの脆弱な人々にとって不可欠となるUNHCRの役割に謝意を表し、本支援が、シリア難民への生計訓練を始めとする様々なサービスを提供するUNHCRの活動を、効果的に支援することを願う旨述べました。



